

経験者が参入希望者にエール

農業参入セミナー

大阪府は、8月29日(企業向け)と9月6日(個人向け)にそれぞれ農業参入セミナーを開催。関心のある計100人が参加した。

府内の地域計画対象地域において、約2割の農地で将来の担い手が不在になるなど担い手の確保が課題となっていることを受けて実施したもので、当日は

大阪府から新規参入に向けて必要な事項の説明、自治体や関係機関からの情報提供、参入希望者が農家や行政、関係機関などと相談できるブース相談会などが行われた。

このほか、農業参入した3者が事例発表を行った。3者の要旨は以下のとおり。

参入時の計画は念入りに

税理士・渡辺喜代司氏

平成13年に農業関連の仕事に携わって以来、様々な業務に従事しつつ、令和4年には兵庫県丹波市で就農。現在は約1・8畝で山椒などを生産している。

農水省 農村研修
都市近郊農業の現場を経験
富田林市・ナカスジファーム
農水省2年目・大橋春哉さん

「自ら作業した区画に小さなキュウリを見つけ、生育の一端に携われたと実感」と大橋さん(写真手前)

表)に滞在し、生産現場について学ぶ農村研修を受けた。

大生産地のような土地利用型農業ではなく、都市近郊で創意工夫を重ねながら集約的に営まれる農業に関心があった大橋さん。「行政の担い手支援が現場に与える影響は大きい。だからこそ農家が日々どのように農作業に

農林水産省入省2年目の大橋春哉さん(24)は、8月12日から9月5日にかけて富田林市西板持でナスやキュウリを生産するナカスジファーム(中筋秀樹代

取り組んでいるかを知ることが重要」との考えで研修に臨み、研修では、キュウリの定植、誘引、摘心等の作業に取り組んだ。また、富田林市内の農家らが

就農希望者に対して農業研修を行う「きらめき農業塾」の運営にも携わった。学生時代に新規就農支援について研究した経験もあり、農業塾の取り組みは当時の研究内容とも重なる部分が多かったようだ。

このほか、中筋代表とともに農家の会合にも参加し、府内の農家と営農する上での課題等について意見交換をするなど、農園の外でも大阪農業についての理解を深めた。

現在は、省内で統計業務を担当する大橋さん。「政策の基盤となるのが統計。今回の研修で伺った農家の声や現場の状況を日々の業務に活かしていきたい」と抱負を語った。(沼田)

企業の農業参入の動機はさまざまであるが、近年は食品業界が原料を自前で確保するために農業参入するケースが増えている。しかし経営計画が甘く、特に

努力次第で夢を追える農業

河南町・吉田峻太氏

河南町・富田林市の計40アールでイチゴや露地野菜を生産。大学在学中、地元のブランドイチゴ「ちはや姫」の味に感動し、生



地域の支えで独立就農

羽曳野市・小林庸恭氏

羽曳野市で約1・7畝のブドウを生産。農家でのアルバイトを経て、就農4年目に独立を目指す指したが、当時は青年就農給付



販路を確保できず採算が取れない事例も散見される。経営を確立するためには市場調査や農地確保の方法など、地域や作目ごとの状況を十分に下調べすることが不可欠である。

産者として届けたいと考え、イチゴ農家を志した。

就農に向けて農業大学校に入學し、府のいちごアカデミーや近隣農家でのアルバイトを通じて技術を学んだ。公的機関での研修はその後の人脈形成につながり、大きな助けとなった。

資金面などのハードルは、関係機関や地域の協力を得れば乗り越えられると実感。農業は努力次第で高収入を追求できるので、ぜひ就農を志してほしい。

金などの支援制度がなく、行政支援は乏しかった。

その中で、地域農家や関係機関の協力により住居・農地・設備を整えることができ、平成23年に地域初の新規就農者として独立を果たした。

就農には地域とのコミュニケーションが必要不可欠なため、常に意識して欲しい。今後は「週4日勤務で所得1000万円」を目標に取り組んでいきたい。

(沼田)